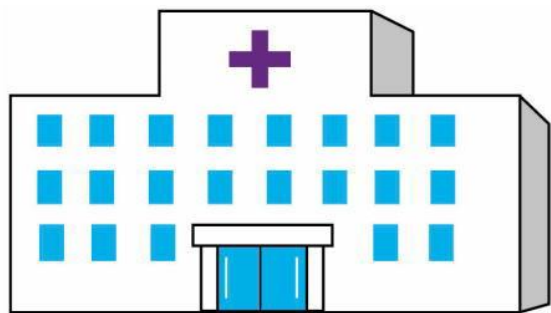
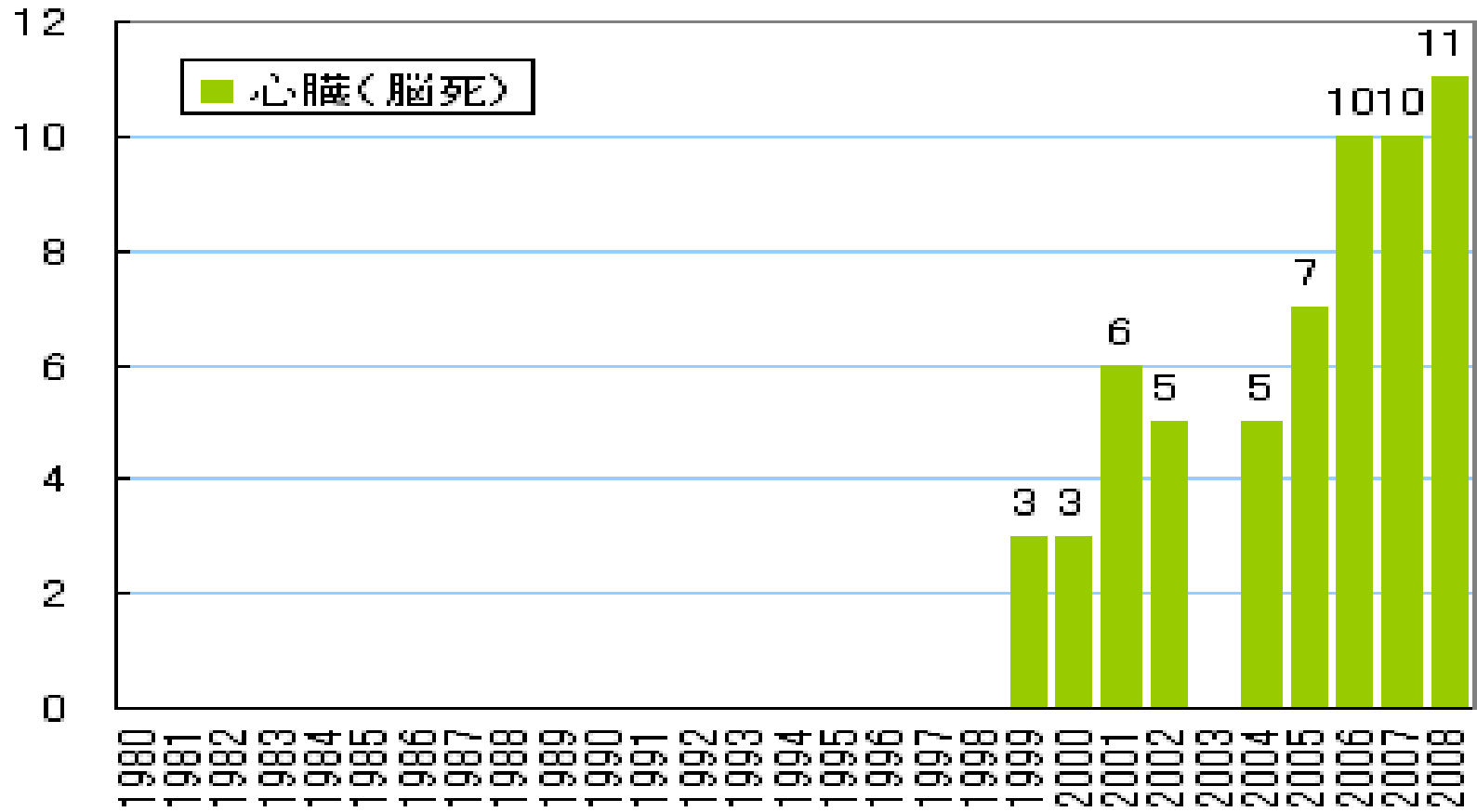


臓器移植に見る日本人の身体観



変遷

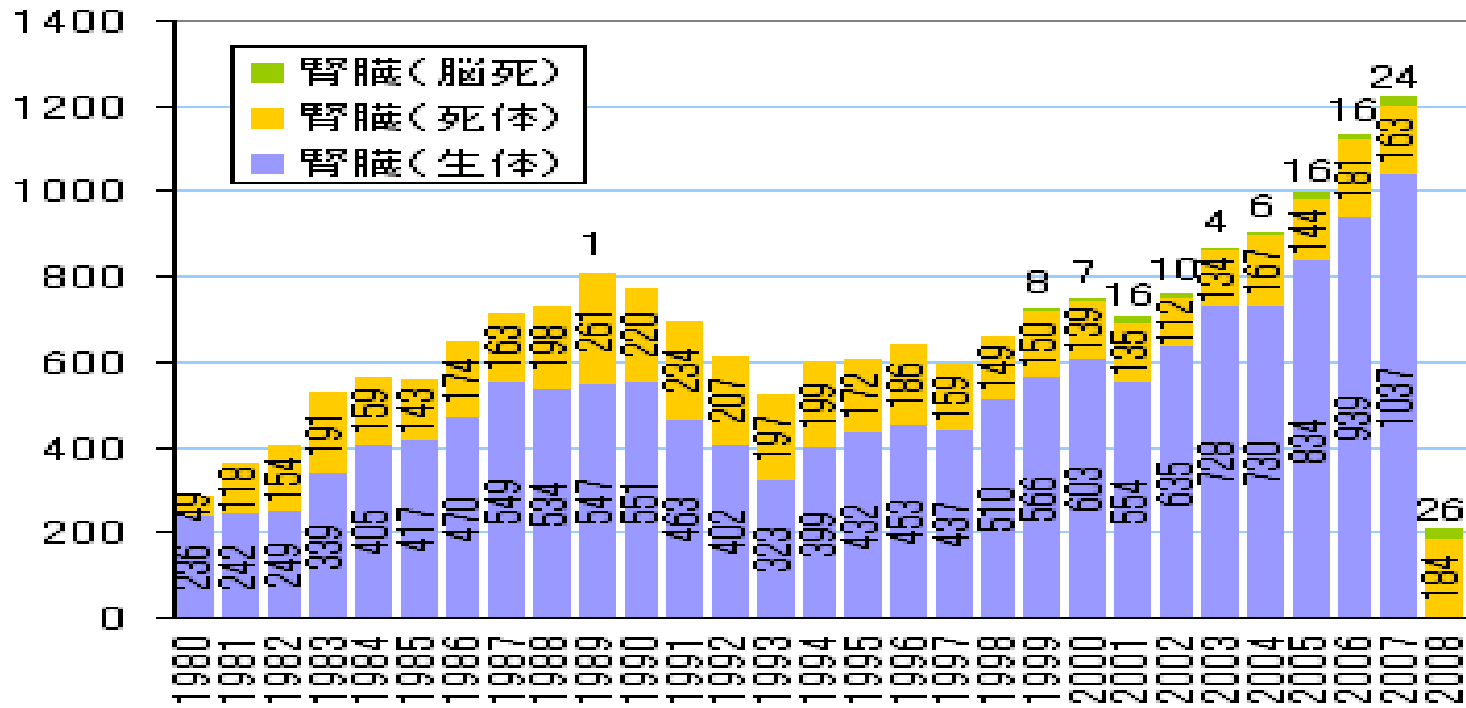
心臓



変遷

* 脳死臓器移植数のみ数字表記タテ

腎臓



日本での心臓の提供人数

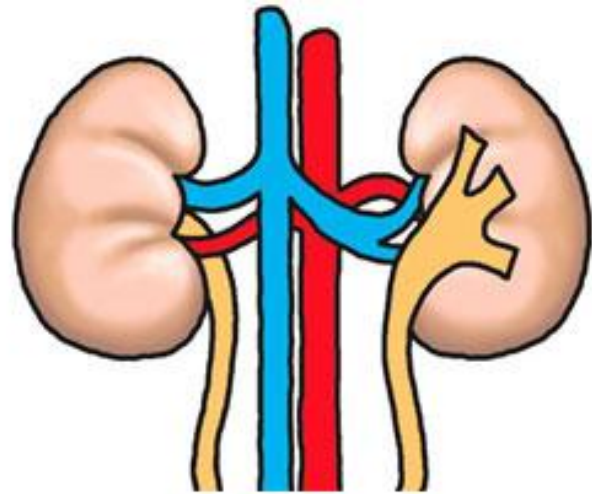
- 平成23年から平成9年まで
- 29・27・5・14・9・9・6・8・2・4・3・6・3・1・0



(参考) 日本臓器移植ネットワーク

日本での腎臓の提供人数

- 平成23年から平成7年まで
- 115/108/83/124/114/103/99/90/86/64/84/65/82/85/90/94/86



データから見た 日本人の移植の特徴

生体臓器移植が圧倒的に多い

脳死状態での移植はきわめて少ない

日本での臓器移植

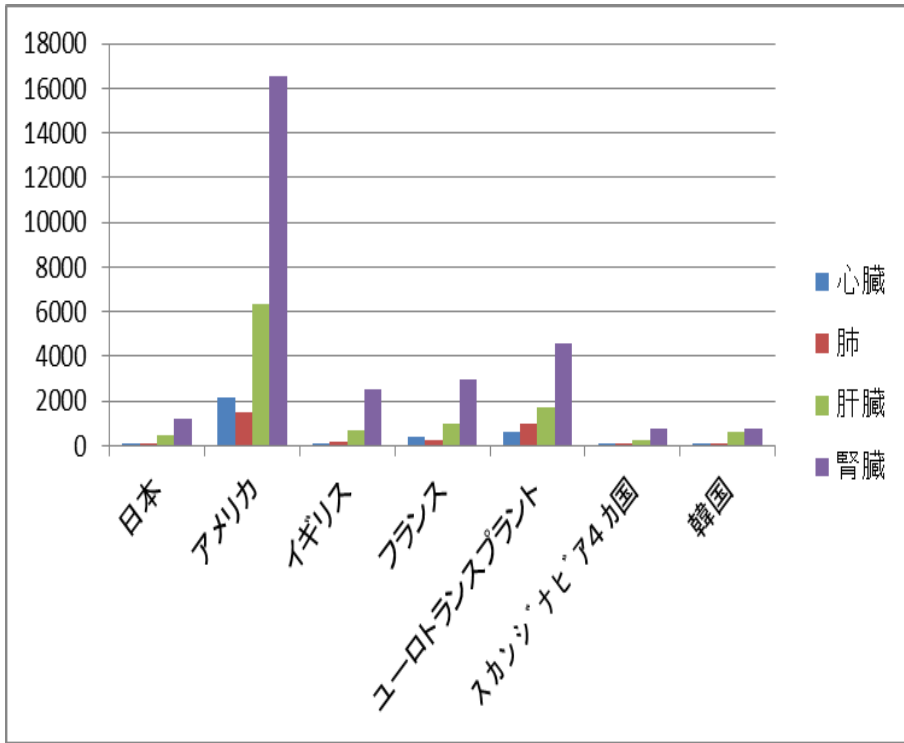
例) 腎臓移植は最も希望数の多い臓器だが、平均待機期間は5078日(約14年！)

脳死下では2010年までに86例

実施される数は欧米諸国に比べて少ない

海外との比較

各国の臓器移植数の比較(2008年、なお韓国は2005年)



	心臓	肺	肝臓	腎臓
日本	13	25	476	1201
アメリカ	2,190	1,505	6,319	16,519
イギリス	133	146	701	2,497
フランス	379	215	1,011	2,937
ユーロトランスプラント	581	972	1,688	4,610
スキャンディナヴィア4カ国	89	83	237	786
韓国	26	8	594	754

ユーロトランスプラント (EUROTRANSPLANT : ET)

オランダ、ベルギー、ルクセンブルク、ドイツ、オーストリアの5カ国の移植施設が参加する臓器移植ネットワーク

コーディネーター育成プログラム

⇒臓器提供の同意を得るために家族にアプローチする医師、看護師などに対する教育プログラムを作成、トレーニング

一般向け教育とPR

⇒TV番組、家庭医・開業医への資料配布など

臓器移植は望ましいか？

欧米諸国⇒望ましいと考える人の割合が高い

– ドイツ82%

– フランス61%

– アメリカ72%

(性別、年齢層による差はあまりない)

儒教文化圏の韓国も55%

⇔日本は34%で、年齢が上がるほど割合低下

海外

- 欧米

- 機械論的身体観

- 機械論的身体観とは、意識が、機械的身体を一部分一部分すべてコントロールするというもので、つまり「思考する私」が、直接身体を操っているのだとする身体観

- キリスト教

- 死後の復活、死体それ自体にはあまり執着なし
魂と身体の二元論

海外

- 韓国

- 儒教文化

- 身体は祖父母や親からもらったもので傷つけてはならない

- ...でも、信仰としての儒教は数%と低い

日本人の身体観

- 心停止＝死
- 脳死...心臓動いてる・意識がないだけで生きてる

家族がドナーになることに抵抗ある

生体OK⇒提供者が死なないなら、OK

日本人の身体観

自分・家族・赤の他人それぞれの身体に持たせる意味が違う

- 自分がドナー、レシピエントになるのには抵抗ない
- 家族がドナーになるのに抵抗がある
- 臓器提供が悪いことだと思ってる人は少ない

宗教観の影響

- 無宗教⇒宗教によって臓器提供を善行として定義できない

臓器提供したからって天国に行けるわけじゃないし...